

独立行政法人水資源機構理事長賞（優秀賞）

「金賞の思いを捧げて」

埼玉県

川口市立高等学校附属中学校

二年

合葉

鴻太

「井澤弥惣兵衛ってすごいなあ！」

小学四年生のころ、僕はこの人物のとりこになった。井澤弥惣兵衛というのは江戸時代に活躍した紀州出身の役人だ。彼は、その優れた技術を用いて利根川から約六十キロにも渡って見沼代用水を引き、水害や水不足で困っていた人々を救った英雄だ。そんなことを教科書の「かわぐち」で学んでから、どんな戦国大名や偉人達とも比べられないくらい井澤弥惣兵衛のことが好きになった。

僕の住んでいる埼玉県には、川がたくさん流れている。荒川や芝川、利根川に江戸川……。有名な川の数々は埼玉県にある。しかし、水には水害もつきものだ。その年の大きな台風で芝川は氾濫寸前まで増水していたし、荒川も氾濫してしまった。だからこそ、埼玉県では古くから治水の試みがなされてきた。利根川と荒川を切り離した、伊奈忠治をはじめとする伊奈氏や、見沼代用水を引いた井澤弥惣兵衛は埼玉の有名な人だろう。彼らが作り上げた治水の遺産は今でも人々を助け、僕らの暮らしを支えてくれている。

なのに、今の見沼代用水や荒川は大切にされていない。もちろん、大切にしている人々がないという訳ではない。それでも、川を我が物顔で汚す人がいるのだ。橋に置かれたビールの空き缶。平然とごみ入りのビニール袋を捨てる人。ヘドロまみれのタイヤを捨てる人。火のついた煙草を面白そうに投げ込む人。川をごみ箱のように扱う人がいる。そんな光景を見るたびにこう考えてきた。

「ここは、あなたの川じゃない。ごみ箱じゃない。みんなのためにここを築き上げてくれた人がいる。大切にそれを守ってきた人がいる。」

そんなことを心から知ってほしい、と僕は熱望した。

そこで、彼らのことを人々に広めようと、理解してもらおうと、「かわぐち社会科マップコンテスト」への参加を決めた。

彼らのことを調べる過程で沢山の人々に話を聞いたり、色んな場所を見て回ってみたりした。かつての見沼溜井、芝川第一調節池、さいたま市立博物館。そこにいた、自身の体験を懸命に話してくれた人、当時の記録や状況を解説してくれた博物館のインストラクターさん。

全員が埼玉の川と、人々に尽くした彼らを敬愛していた。それらを通じて「井澤弥惣兵衛」や「伊奈忠治」のすごさを改めて実感した。だからこそ、今、汚されてしまった見沼代用水や荒川を思い浮かべると自分の無力さにますます腹が立つ。

「もつと川を、彼らの思いを大切にしてほしい！僕も地図に彼らの思いや功績を表したい！」という一心で作業に打ち込んだ。

治水を成功させたかつての技術、彼らの努力、情熱。そんなものを教科書以上に学ぶことができた。

でも、これで終わりではない。埼玉だけでなく日本全国に川や池、海があつて、そこに情熱を捧げた人々がいる。それらを必死で守ってきた人がいる。そのことを自覚し、責任をもつてそれらを「使わせてもらう」ことが、これからの僕たちには必要なのだ。

僕のマップは金賞を取った。あなたの思いは、行動は彼らに果たしてどう評価されるだろうか。彼らは僕らのそばに、水のそばにいる。水を使う度に「ありがとう。」そう思えば、僕たちの川は、池は、海はきっと美しくなっていくはずだ。